

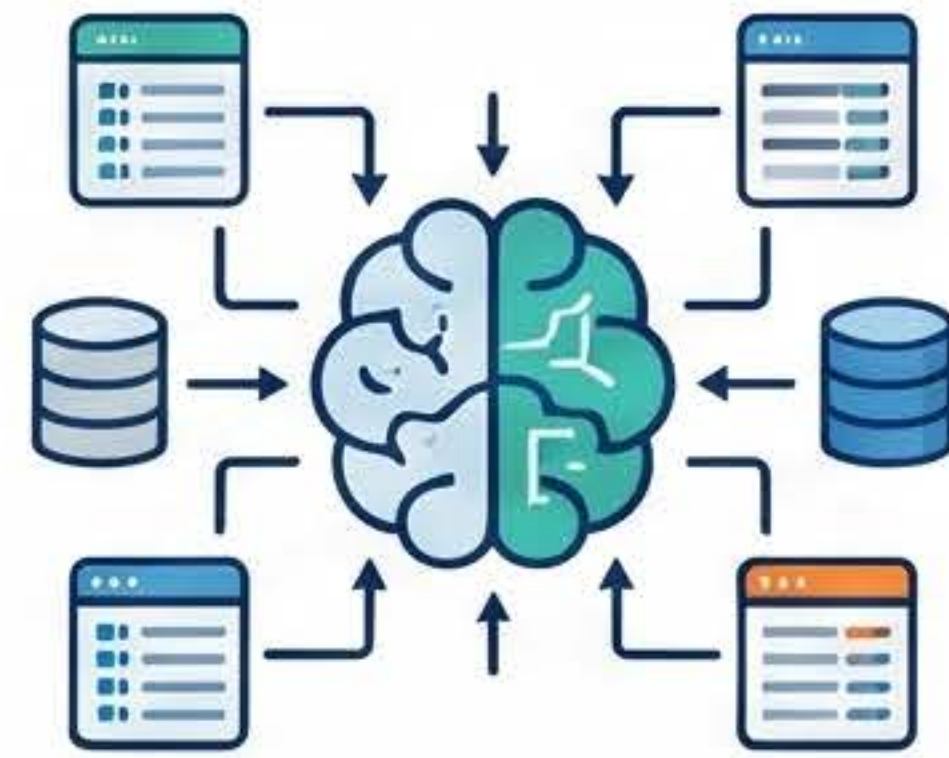
知財・情報フェア 2025-2026：特許網構築におけるAI活用の劇的進化

2025年から2026年にかけて、知財業界におけるAI活用は大きな転換点を迎えました。AIの役割は「個別の実務（書く・調べる）の代行」から、周辺特許を自動生成し、他社製品を攻撃・牽制する「戦略的な網の構築」へと一段高いフェーズへ移行しています。

2025年：個別実務の効率化と代行



工程の自動化
個別書類作成の支援



個別の実務
(書く・調べる)の代行

成長の軌跡

2025年
(第34回)

出展社数:158社・団体

出展者プレゼン:86テーマ

登録来場者数:15,207名

2026年：戦略的な特許網の設計・活用



周辺特許を自動生成

AI Samuraiの「発明ホコタテ」は、1つの特許から5～6件の周辺業を約5分で出力。



攻めのAI

自社特許と他社製品を対比し、侵害を検証する「攻めのAI」が登場しました。



網の設計

周辺特許群を自動生成する段階へ進化。

成長の軌跡

2026年
(第34回)

出展社数:171社・団体

出展者プレゼン:108テーマ

登録来場者数:15,502名

技術基盤の変遷

2026年
(第35回)

出展テーマ数が**26%**増加

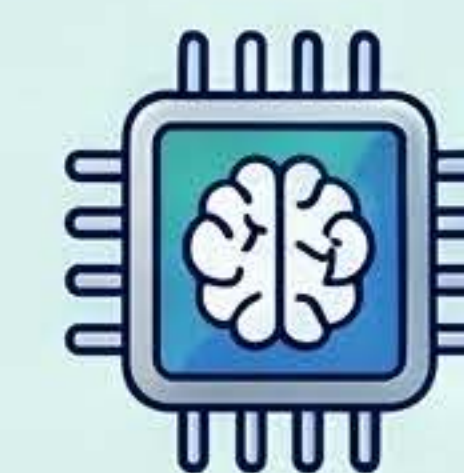
出展者数や小間数も拡大し、ベンダー間のAI競争が激化しています。



汎用LLMの初期活用



接続の標準化(MCP)の波
汎用LLMと特許DBを直接繋ぐMCP方式が複数社から同時出現しました。



独自LLMの登場

汎用AIだけでなく、国内ベンダーによる特許特化の独自LLMが公開されました。